



## 花はどうして自分でつけないで、虫に花粉を運んでもらうの

### ほかの花の花粉をつけてもらいたいから

同じ花の中に、花粉のついたおしべ、めしべがあるのに、どうして、わざわざハチやチョウに、花粉を運んでもらうのでしょうか。

アサガオの花のように、自分の花の花粉がめしべについて、種ができるものもあります。でも、この方法では、だんだん花や種が病気などに弱い、色や質の悪いものになっていくことが多いのです。子孫がほろびてしまいやすいのです。そのため、わざわざ、あまいみつを用意し、色とりどりの花の色で虫を呼び寄せ、ほかの花の花粉をつけてもらうようなくみに、なってきたのです。

さらに、自分の花粉がつかないように、同じ一つの花の、めしべとおしべが、熟す時期がちがう花が多いのです。ホウセンカ、キキョウ、キクの仲間などは、おしべが先に熟します。アブラナの仲間や、モクレン、オオバコなどは、めしべが先に熟します。

サクラの花などは、めしべが高くつき出ている、まわりのおしべの花粉が、めしべにくっつかないようになっています

ヘチマのように、お花とめ花があるものでは、同じ株のお花が、め花より少し先に咲き、め花が確実に花粉を受け取れるようになっています。

### 同じ株の花粉では、実ができないものもある

ナシやウメなどの果物や、イチゴなどは、同じ株について花の花粉がめしべについてのは、うまく実や種ができないことが多いのです。そのため、必ず、近くに花粉を出す別の木や株を植えなければなりません。（監修・矢野 亮）

